

青龍寺の御詠歌（秋月調）

♩ = 60 ぐらい

松 濤 基 作曲



○ × ○ × ○ × ○ ×
 (詠頭) たつ そ ま や — たつ—そ ま や



○ × ○ × ○ × ○ ×
 (斉唱) な むあ み— だ ぶつ の こえ—ひ く は ァー



○ × ○ × ○ × ○ × ○ × ○ ×
 こえ—ひ く は にしにいざなう—にしにいざなう



○ × ○ × ○ × ○ ×
 あ—き —の よ の つ き

比叡山 黒谷 青龍寺

たつ^{そま}杣や 南無阿弥陀仏の 声引くは 西にいざなふ 秋の夜の月

(天台座主 慈鎮和尚御作)

比叡山西塔黒谷の青龍寺は、法然上人が18歳から25年間勉強修練なされ、この地の報恩蔵で一切経を五度、善導大師の著述を三度読まれ、浄土宗開宗の確証を得られた尊い御霊跡です。慈鎮和尚（慈円大僧正・1155～1225）は、九条関白兼実公の弟で、四度も天台座主になられた名僧で、著書に『愚管抄』や歌集『拾玉集』があり、歌人としても有名で、『千載和歌集』『新古今和歌集』以下15の勅撰集、その他を合わせて六千首以上の和歌が現存するといわれています。

◎慈鎮和尚御歌

- ・おほけなく うき世の民に おほふかな わがたつ杣に 墨染めの袖 (百人一首)
- ・おろかなる 心なれども 思ふことは 往生浄土 臨終正念
- ・よもすがら したふ心を てらさなん 西にかたぶく 山のはの月
- ・極楽を ねがへとばかり をしえてや ただ西へのみ 月は入るらむ
- ・ただひとり 残りて人を 救ふべき あみはあみだの 名にこそ有りけれ

大意 この比叡山で南無阿弥陀仏とお念仏を続けていると、秋の夜の冴えわたるお月様も、西方浄土へと導いて下さいます。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

語句 たつ杣：「あのくたらさんみゃくさんぼだいの仏たち 我立杣に冥加あらせ給え」と日枝の杣山に比叡山寺を建てた伝教大師最澄の祈願文により、以後比叡山を指す言葉となった。

ポイント注意

- 「にしにいざなう」は歯切れよくリズム強調。